

令和2年度

第3回学校関係評価（概要）及び評価を受けた次年度の本校の対応について

流山市立西初石中学校

【第3回学校関係者評価委員会】

日時 令和3年2月5日（金）10:00～12:00

場所 本校図書室

出席委員

流山市立西初石小学校	校長	塩野述子
千葉県立流山おおたかの森高等学校	校長	西野孝 (代理 教頭 田中祐之)
森の葉保育園	園長	石田由美子
流山里山ボランティア	事務局長	生方康之
流山建設業組合	専務理事	川畑哲則
地区コーディネーター		森本ななえ
同		橋歌詠

本校出席者

校長	浦沢雄一
教頭	小泉有紀
教務主任	大石隼
研究主任	平大樹

(1) 協議内容

本校の自己評価を受け、評価をいただいた。特に「総括」を受け、今後の課題に対して、ご意見をいただいた。

① 総括のポイント

□成果

- ・授業改善・SDGsへの取組・プロジェクトリーダーを中心とした主体的組織的な取組
- ・「自分の考えを表現（書く・話す）すること」ができはじめた。
- ・貢献隊をはじめとする「主体的な行動」や「自分の力を役立てること」ができ始めている。

□課題

- ・「自分の考えを表現できる」段階から、さらに深めたり、他の考えを聞き入れながら判断したり、行動したりすること。
- ・地域スローガンの具現化を進めること。
- ・プロジェクトリーダーを中心に更に多くの連携を進めること

②学校関係者評価委員の意見（概要）

*主に「考えを表現し、さらに考えを深めたり、他の考えを聞き入れながら判断したり、行動したりすること」についてご意見をいただいた。

- ・小学校では自分のことを話すことが多く、論理的・主張を入れていくことが教科書に組み込まれていて、かなり小学校段階でもやっている。中学校ではその時間がないのではないか。みんなに合わせることで主流になってしまうのではないか。
- ・就学前の保育園段階でも、「自分で考えて決めること」が目標の一つになっている。
- ・「自ら考える」が高校のテーマである。自分で進むことができる生徒の育成を進めている。

○以上のことから、「自ら考えを深める」ことについて、生徒（生活）指導上のことも含め、幼保子小さらには中高の系統性のある指導が必要になるだろう。

○自分で考えて行動したことが認められる声かけが多いことが、自己肯定感を高めることにつながるだろう。一小一中という地域柄、幼い頃からのヒエラルキーができやすい状況であるが、中学校への進学はそれを覆すチャンスでもある。

○生徒が自分を表現できるような場面を多く作ってほしい。基本は授業。

（２）（１）を受けた本校の学校運営部での協議

①表現力を高める授業実践

（国語）創作活動 発表 役割を決めて討論

（数学）教え合い活動で論理的思考高める 自己肯定感の向上につながる

（理科）説明する活動 レポートやプレゼンでまとめる活動

（社会）ディベート パワポを使って発表（小学校での成果を感じる）

（体育）グループ活動を取り入れお互いに思考を深める活動

更に高めるためには

- ・今年度の成果として、「人から言われると書ける・言える」には到達しているので、今後は系統立てて進める必要がある。
- ・小中の発達段階が違うので、お互いに知るために、小中の橋渡し必要である。
- ・知識、理解がないと、より良い表現につながらないということを大事にしたい。

②令和３年度の教育課程づくりにどう生かしていくか。

- ・小中連携を深め、職員の相互授業参観を積極的に行い、児童生徒の実態把握した上で授業改善を行う。
- ・小学校での実施内容を知る・中学校でどのように質を高めていき、どこを目指すのかを共有する。

- ・新学習指導要領を把握し、各教科の目標および評価規準を本校の教育目標と地域や生徒の実態に合わせて設定する。生徒の実態を知るために、教員個々の見取りだけでなく、各教科で数値化し、担当が変わっても学校としての見取りになるようにしておく。評価項目の内容は各教科で吟味する。
- ・「表現力」を身に付けることと、「指導と評価を一体化」させることを根底に置き、指導計画を立てる。
- ・地域・幼稚園・保育園・高齢者施設との連携を深められるような指導計画を総合的な学習の時間や各教科に取り入れることを検討し、生徒の自立につながるよう計画する。
- ・読書活動を教育活動に取り入れる。
- ・道徳や学級活動の授業を軸に生徒の「本音を語れる人間関係」の構築を図るために、担任だけでなく、学年体制で授業にあたる。
- ・ICTを有効活用する。
- ・総合的な学習の時間について（生き方・人間関係づくり・探究力・表現力の育成）の重点を決めていく。